

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年11月11日

【四半期会計期間】 第23期第3四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 シークス株式会社

【英訳名】 SII X Corp.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 桔 梗 芳 人

【本店の所在の場所】 大阪市中央区備後町一丁目4番9号

【電話番号】 06(6266)6400(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経理部長 大 野 精 二

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区備後町一丁目4番9号

【電話番号】 06(6266)6400(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経理部長 大 野 精 二

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第22期 第3四半期 連結累計期間	第23期 第3四半期 連結累計期間	第22期
会計期間	自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日
売上高 (百万円)	152,578	151,020	207,009
経常利益 (百万円)	3,780	4,027	5,427
四半期(当期)純利益 (百万円)	2,430	2,632	3,321
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,559	4,322	8,487
純資産額 (百万円)	30,257	36,676	33,185
総資産額 (百万円)	85,560	96,889	89,204
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	102.99	111.55	140.73
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	35.1	37.7	37.0

回次	第22期 第3四半期 連結会計期間	第23期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	44.99	37.92

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。
- 3 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(電子(アジア))

第1四半期連結会計期間より、重要性が増した SIIX EMS PHILIPPINES, INC. および SIIX REALTY HOLDINGS INC. を連結の範囲に含めております。

この結果、平成26年9月30日現在の当社グループを構成する連結子会社数は18社であります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間の経済環境を顧みますと、米国では消費が堅調に推移し、失業率の低下が見られる等、引続き景気は回復しました。ユーロ圏においても景気は緩やかな回復傾向で推移しましたが、ユーロ高や新興国景気の減速による輸出不振等、先行きに対する不安感も高まりました。一方アジアでは、中国で実質GDP成長率が鈍化する等、景気の減速感が見られました。日本では、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から回復にもたつきが見られるものの、景気は引続き緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況下、当社の当第3四半期連結累計期間の売上高は1,510億2千万円となり、前年同期に比べて15億5千8百万円の減少（1.0%減）となりました。利益面では、営業利益は39億7百万円と前年同期に比べて3億7千5百万円の増加（10.6%増）となり、経常利益は40億2千7百万円と前年同期に比べて2億4千6百万円の増加（6.5%増）となりました。四半期純利益は26億3千2百万円となり、前年同期に比べて2億2百万円の増加（8.3%増）となりました。

セグメント別の業績および要因は次のとおりであります。なお、本文中の「セグメント利益」および「セグメント損失」は、四半期連結損益計算書の営業利益を基礎としております。

#### 電子(日本)

車載関連機器用部材等の出荷が増加したことにより、当セグメントの売上高は487億5千6百万円と前年同期に比べて54億5千6百万円の増加（12.6%増）となりました。セグメント利益は15億5千6百万円と前年同期に比べて2億1千1百万円の増加（15.7%増）となりました。

#### 電子(アジア)

車載関連機器用部材の出荷が増加しましたが、デジタル家電機器の出荷減少が大きく影響したため、当セグメントの売上高は1,109億6千1百万円と前年同期に比べて25億3千9百万円の減少（2.2%減）となりました。利益面では、売上高の減少に加え、新たに連結の範囲に含めた製造子会社の初期負担もあり、セグメント利益は30億1千8百万円と前年同期に比べて1億4千2百万円の減少（4.5%減）となりました。

#### 電子(欧州)

車載関連機器用部材の出荷は堅調に推移しましたが、家電関連機器の出荷が減少したため、当セグメントの売上高は55億9百万円と前年同期に比べて11億3千4百万円減少（17.1%減）となりました。一方利益面では、製造子会社の業績改善等により、1千9百万円のセグメント利益（前年同期は1億7百万円のセグメント損失）となりました。

電子(米州)

車載関連機器用部材の出荷が大幅に増加した結果、当セグメントの売上高は156億4千5百万円と前年同期に比べて61億1千8百万円の増加(64.2%増)となりました。セグメント利益は4億2千5百万円と前年同期に比べて1億9千5百万円の増加(85.1%増)となりました。

(2) 財政状態の分析

総資産は、前連結会計年度末に比べ76億8千4百万円増加し、968億8千9百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金、商品及び製品の増加によるものです。

負債につきましては、負債合計が前連結会計年度末に比べ41億9千3百万円増加し、602億1千2百万円となりました。これは主に、買掛金の増加によるものです。

また、純資産は前連結会計年度末に比べ34億9千1百万円増加し、366億7千6百万円となりました。

この結果、自己資本比率は37.0%から37.7%に増加いたしました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動として特筆すべき事項はありません。

(5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、連結会社または提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

仕入実績

該当事項はありません。

受注実績

該当事項はありません。

販売実績

該当事項はありません。

(7) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、著しい変動があったものは、次のとおりであります。

第2四半期連結累計期間において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期連結累計期間において完了した設備は以下のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資額 (百万円)	資金調達 方法	着手年月	完了年月	完成後の 増加能力
SIIX EMS (DONG GUAN) Co., Ltd.	本社 (中国 広東省)	電子 (アジア)	生産設備	475	自己資金	平成26年 5月	平成26年 9月	生産能力 3.7%増加

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、特記すべき事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	25,200,000	25,200,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	25,200,000	25,200,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日		25,200,000		2,144		1,853

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,600,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,597,200	235,972	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
単元未満株式	普通株式 2,400	-	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
発行済株式総数	25,200,000	-	-
総株主の議決権	-	235,972	-

(注) 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式52株が含まれております。

## 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) シークス株式会社	大阪市中央区備後町 一丁目4番9号	1,600,400	-	1,600,400	6.35
計	-	1,600,400	-	1,600,400	6.35

## 2 【役員 の 状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は次のとおりであります。

## 役職の異動

氏名	新役職名	旧役職名	異動年月日
岡田 雅夫	取締役 執行役員 大阪営業部長 兼 資材統括部担当 兼 韓国、台湾担当 兼 シークスエレクトロニクス 株式会社代表取締役社長	取締役 執行役員 大阪営業部長 兼 資材統括部担当 兼 韓国、台湾担当	平成26年8月1日

(注)当社では、経営のより迅速な意思決定を行うとともに、業務執行体制の強化をはかるため、執行役員制度を導入しております。なお、前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における執行役員の異動は次のとおりであります。

## 役職の異動

氏名	新役職名	旧役職名	異動年月日
松嶋 義彦	執行役員 社長付 グループ技術統括担当 兼 シークスエレクトロニクス 株式会社グループ技術統括部長	執行役員 シークスエレクトロニクス 株式会社代表取締役社長	平成26年8月1日

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,603	6,658
受取手形及び売掛金	39,518	41,774
商品及び製品	14,450	17,612
仕掛品	752	856
原材料及び貯蔵品	3,387	4,360
その他	2,056	2,559
貸倒引当金	475	475
流動資産合計	67,293	73,346
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,531	6,419
機械装置及び運搬具（純額）	5,914	6,395
土地	2,322	2,522
その他（純額）	639	845
有形固定資産合計	14,409	16,183
無形固定資産	516	480
投資その他の資産		
投資有価証券	3,449	3,394
出資金	927	954
その他	3,056	2,994
貸倒引当金	448	464
投資その他の資産合計	6,985	6,878
固定資産合計	21,911	23,542
資産合計	89,204	96,889



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	29,829	33,255
短期借入金	12,564	12,990
未払法人税等	691	631
その他	4,323	4,530
流動負債合計	47,409	51,408
固定負債		
長期借入金	5,675	5,448
退職給付引当金	141	179
その他	2,792	3,176
固定負債合計	8,610	8,804
負債合計	56,019	60,212
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,144	2,144
資本剰余金	1,853	1,853
利益剰余金	26,398	28,139
自己株式	677	677
株主資本合計	29,717	31,459
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	474	796
繰延ヘッジ損益	5	0
為替換算調整勘定	2,799	4,243
その他の包括利益累計額合計	3,268	5,040
少数株主持分	199	176
純資産合計	33,185	36,676
負債純資産合計	89,204	96,889

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	152,578	151,020
売上原価	143,478	140,738
売上総利益	9,099	10,282
販売費及び一般管理費	5,567	6,375
営業利益	3,531	3,907
営業外収益		
受取利息	31	42
受取配当金	29	64
持分法による投資利益	-	69
不動産賃貸料	67	70
為替差益	108	-
物品売却収入	95	69
その他	194	186
営業外収益合計	526	502
営業外費用		
支払利息	157	153
持分法による投資損失	44	-
為替差損	-	130
物品購入費用	38	48
その他	38	49
営業外費用合計	278	382
経常利益	3,780	4,027
特別利益		
固定資産売却益	14	-
特別利益合計	14	-
特別損失		
固定資産売却損	2	-
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	3	-
税金等調整前四半期純利益	3,792	4,027
法人税、住民税及び事業税	1,113	1,314
法人税等調整額	265	107
法人税等合計	1,379	1,422
少数株主損益調整前四半期純利益	2,412	2,605
少数株主損失( )	17	26
四半期純利益	2,430	2,632

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,412	2,605
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37	321
繰延ヘッジ損益	17	6
為替換算調整勘定	3,105	1,373
持分法適用会社に対する持分相当額	62	15
その他の包括利益合計	3,146	1,717
四半期包括利益	5,559	4,322
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,551	4,347
少数株主に係る四半期包括利益	8	24

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

<b>当第3四半期連結累計期間</b> (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
<b>連結の範囲の重要な変更</b> 第1四半期連結会計期間より、重要性が増した SIIX EMS PHILIPPINES, INC. および SIIX REALTY HOLDINGS INC. を連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

非連結子会社の金融機関からの借入に対して次のとおり保証をしております。

前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
SIIX EMS PHILIPPINES, INC. 105百万円	SIIX EMS MEXICO S de RL de C. V. 169百万円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
給与及び手当 1,949百万円	2,130百万円
貸倒引当金繰入額 0百万円	1百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間にかかる減価償却費（無形固定資産にかかる償却費を含む。）は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
減価償却費 2,174百万円	2,283百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間（自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月28日 定時株主総会	普通株式	377百万円	16円00銭	平成24年12月31日	平成25年3月29日	利益剰余金
平成25年8月9日 取締役会	普通株式	377百万円	16円00銭	平成25年6月30日	平成25年9月3日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日）

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年3月28日 定時株主総会	普通株式	377百万円	16円00銭	平成25年12月31日	平成26年3月31日	利益剰余金
平成26年8月11日 取締役会	普通株式	377百万円	16円00銭	平成26年6月30日	平成26年9月2日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電子 (日本)	電子 (アジア)	電子 (欧州)	電子 (米州)	計		
売上高							
外部顧客への売上高	26,424	104,222	5,897	4,895	141,439	11,123	152,563
セグメント間の内部 売上高又は振替高	16,875	9,278	746	4,632	31,533	194	31,728
計	43,300	113,501	6,644	9,527	172,973	11,318	184,291
セグメント利益 又は損失( )	1,345	3,161	107	230	4,628	30	4,658

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主要な製品および商品はワイヤーハーネス部材、オートバイ用部材、設備機械および印刷インキ等であります。

2 報告セグメントの売上高、利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額および当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	金額
報告セグメント計	172,973
「その他」の区分の売上高	11,318
セグメント間取引消去等	31,713
四半期連結損益計算書の売上高	152,578

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,628
「その他」の区分の利益	30
セグメント間取引消去	48
全社費用等(注)	1,175
四半期連結損益計算書の営業利益	3,531

(注) 全社費用等の主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社の総務部、経理部等管理部門および国内子会社にかかる費用であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高および利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	電子 (日本)	電子 (アジア)	電子 (欧州)	電子 (米州)	計		
売上高							
外部顧客への売上高	30,794	97,752	4,836	9,184	142,567	8,449	151,016
セグメント間の内部 売上高又は振替高	17,962	13,208	673	6,461	38,305	926	39,232
計	48,756	110,961	5,509	15,645	180,873	9,376	190,249
セグメント利益 又は損失( )	1,556	3,018	19	425	5,020	30	5,051

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主要な製品および商品はワイヤーハーネス部材、オートバイ用部材、設備機械および印刷インキ等であります。

2 報告セグメントの売上高、利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額および当該差額の  
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

売上高	金額
報告セグメント計	180,873
「その他」の区分の売上高	9,376
セグメント間取引消去等	39,229
四半期連結損益計算書の売上高	151,020

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	5,020
「その他」の区分の利益	30
セグメント間取引消去	9
全社費用等(注)	1,134
四半期連結損益計算書の営業利益	3,907

(注) 全社費用等の主なものは、報告セグメントに帰属しない親会社の総務部、経理部等管理部門および国内子会社にかかる費用であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益	102円99銭	111円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	2,430	2,632
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	2,430	2,632
普通株式の期中平均株式数(株)	23,599,569	23,599,562

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

第23期(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)中間配当については、平成26年8月11日開催の取締役会において、平成26年6月30日の最終の株主名簿に記載された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議しました。

配当金の総額	377百万円
1株当たりの金額	16円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年9月2日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月11日

シークス株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 松 山 和 弘 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 黒 川 智 哉 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているシークス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、シークス株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。